第 183 回 誘電絶縁材料技術委員会議事録（案）

日時：2006 年 8 月 29 日（木）　13:30～16:30
場所：電気学会会議室（第会議室）

出席者（順不同、敬称略）：

【委員長】穂積（愛知工大）、
【幹　事】内田（中部電力）、田中（武蔵工大）
【委　員】本城（三菱電線）、加藤（鈴置代理：名大）、東村（日立）、山野（千葉大）、伊藤（日本ガイシ）、
今井（清水代理：東芝）、福永（通総研）、杣（日立電線）
【幹事補】岡下（昭和電線）

資料：

番号なし　第 182 回　誘電・絶縁材料技術委員会　議事録（案）
183-1　誘電・絶縁材料技術委員会　委員名簿
183-2　第 68 回研究調査運営委員会議事録
183-3　第 69 回研究調査運営委員会議事録
183-4　屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と長期性能調査専門委員会　第２回議事録
183-5　第５回イオンマイグレーションの発生特性と防止方法調査専門委員会議事録
183-6　環境対応材料の電気機器への応用調査専門委員会　議事録【第 10 回】【第 11 回】
183-7　調査専門委員会フォローシート（2006 年度計画）
183-8　平成 18 年度　誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（3 次案）
183-9　2007 年度　電気学会誘電絶縁材料技術委員会学術貢献賞　家田賞および
電気学会誘電絶縁材料技術委員会技術貢献賞（矢作賞）の推薦募集について
183-10　Overview of the Activities of the Technical Committee on Dielectrics
and Electrical Insulation(TC-DEI)
183-11　誘電絶縁材料技術委員会
183-12　第 37 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム　スケジュール（案）
183-13　シンポジウム・研究会におけるＤＥＩＳ東京支部共催、共催・協賛について

議事：

１．前回議事録を岡下幹事補が読み上げ、一部字句の訂正の後、承認された。

２．議事録確認。

３．第 67、68 回研究調査運営委員会議事録（183-2,183-3）について穂積委員長から以下報告があった。
・高分子材料と放射線の相互作用評価技術調査専門委員会設置趣意書は一部文章訂正すると
いうことで承認された。
・H18Ａ部門大会は昨年を上回る投稿件数があった。来年は 8/27～28 阪大にて開催予定。
・技術報告のカラー印刷について２頁以内という条件付きで承認された。
・第 37 回絶縁シンポ、ナノコン委員会からの活動資金申請書の説明を行った。
・Ａ部門活動資金について、来年度以降、予算が削減される可能性があるとの説明があった。
・技術報告の出版に関して赤字が予想される場合は、原則出版に対して柔軟な対応をとれるような
議論が役員会でされている。また技術報告の販促手法として技術報告をテキストに用いた講習会
が他部門で行われているとの説明があった。
・国際会議の集約化について議論されているとの説明があった。

４．屋外ポリマー（中略）委員会の議事録(184-4)が岡下幹事補から紹介された。

５．イオンマイグレーション（中略）委員会の議事録(183-5)が山野委員から紹介された。
第６回の議事録の出席者楠川氏の所属の訂正（東芝→日立）があった。

６．環境対応材料（中略）委員会の議事録(183-6)について加藤氏から紹介があった。

７．調査専門委員会フォローシート(183-7)について田中幹事より報告がなされた。

・岩本委員長の柔構造（中略）委員会が解散。書籍を出版予定(H19.2)
・内田委員長のオンライン計測（中略）委員会(05.12 解散)にて東京支部講習会予定(07.2)
・旧ナノコン（中略）委員会、ポリマーがいし（中略）委員会、有機薄膜（中略）委員会については活動完了済みのためフォロー表から削除する。
・高電界電気絶縁における電荷挙動と界面委員会（長尾先生）と機器絶縁の最新部分放電計測技術委員会（木村氏）については技術報告がまだ出ていないので委員長が進捗確認する。

８．Ｈ１８年度　研究会、技術委員会、その他行事予定(183-8)について田中幹事より説明があった。

・H19/2 の研究会はケーブル技術委員会と共催にする。内田幹事が調整する。
・H19/3 の研究会は学際分野の代わりに講演を行う（穂積委員長が調整)。また、国際会議紹介(CMD、ICPADM、CEIDP、CIGRE、IEC)については発表者を選定する。

９．家田賞、矢作賞の推薦募集(183-9)について内田幹事より説明があった。
まだ推薦がほとんど寄せられておらず締め切り日を延長する。

１０．穂積委員長からＥＩＮＡに投稿した技術委員会活動報告(183-10)の紹介があった。

１１．穂積委員長からＡ部門大会に提出したパネル原稿(183-11)の説明があった。

１２．第 37 回絶縁シンポスケジュール(183-12)に基づき、開催に向けて種々確認を行った。

・まだ論文が少ないので最終締切（9/8）に間に合えば受け付ける。
・予稿と共にＣＤ－ＲＯＭを渡すこととする。また予稿集に調査専門委員会の活動報告を掲載する必要があるのではないか。岡下幹事補から各調査専門委員長に連絡する。
・その他、予算の見直し、現地の下見計画、など確認した。

１３．シンポジウムの活性化について議論。
委員長よりシンポジウムの質の低下の問題提起があった。活性化はどのようにすれば良いのか。

・講演件数が減っても良いので発表の質を上げたい。発表後の議論に耐えるレベルの方を中心に口頭発表をお願いする。
・学生にはポスターセッションを用意すれば良いのではないか。最優秀ポスターには賞を！
・部門大会や国際会議などと重なると件数が減る。研究者が限られているのに同じようなものが多すぎる。集約できないのか？
・聴講者の興味を引くようなセッション、招待講演を行う必要があるのではないか。

今回のシンポジウム懇親会で次回からのシンポジウムのあり方を穂積委員長がプレゼンする時間を取り、参加者との意見交換会を行うこととした。

次回開催日：

１２月１１日　１３：３０～１７：００（寺山パシフィックビル会議室）

以上。